

令和 4 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特12			学校名		県立勝田特別支援学校						学校長名		小室 貢				
副校長名	佐藤 和恵			教 頭 名		篠田 聡子				事務（室）長名		新井 貴信						
教職員数	教 諭	95	養護 教諭	2	栄養 教諭	1	常 勤 講 師	16	非常勤 講師	3	実 習 助 手	2	事務 職員	4	技術 職員等	9	計	135
幼児・ 児童・ 生徒数	部	1年（3歳児）		2年（4歳児）		3年（5歳児）		4年		5年		6年		合計		合計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数		
	幼稚部	0	0	0	0	0	0							0	0	0		
	小学部	9	4	10	6	13	3	9	5	8	4	8	3	57	25	22		
	中学部	17	6	15	6	12	4							44	16	15		
	高等部	25	8	16	3	17	6							58	17	15		

2 目指す学校像

- ◆児童生徒と教職員の笑顔があふれる安全で安心な学校
- ◆児童生徒が主体的・協働的に取組、もっと学びたいを育てられる学校
- ◆児童生徒も教職員もみんながほめられる、認められる、活躍できる学校
- ◆地域、保護者、関係機関等と教職員が連携・協働できる魅力ある学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	・年間指導計画において、部や学年に応じて目標、内容を整理している。また、教科を意識した授業作りに努めている。 ・各教科、教育課程ごとに年間指導計画を作成している。 ・道徳教育全体計画の見直しと活用が必要である。 ・各教科等における授業でのICT活用をさらに充実させる必要がある。	・学習指導要領を踏まえ、各教科の関連性や合わせた指導における教科を意識した授業づくりを行うことが必須である。 ・小・中・高における扱う項目を盛り込み、各教科と関連づけた計画へと改善を行う必要がある。 ・活用の内容などについて実施の現状を集約するとともに、具体的な実践例などを提示していく。（ICT推進係との連携）

進路指導	- 各部においてキャリア発達の視点での学習が行われているが、ねらいや学習内容などに重複している部分がある。 - 卒業後の生活や将来を具体的にイメージし、見通しがもてるよう保護者会やホームページ等で情報提供を実施した。また、教職員間において進路指導に関する理解度に差があり、保護者に対して十分な情報提供ができていない状況がある。 - 高等部生徒の現場実習・職場体験等においては、実習先の企業の開拓や福祉施設との連携を積極的に進め、生徒の進路希望の実現に努めている。令和3年度高等部卒業生の進路先は、企業就職が3名、福祉施設への就労が21名となっており、全員が希望する進路先に進むことができた。	- 各部でのねらいと学習内容を整理し、系統性をもたせた進路指導。 - 情報提供の場の工夫。 - 保護者への進路に対する意識を高める取り組み。 - 教職員の研修の場の充実。 - 教職員の研修のあり方。 - 個に応じた進路指導。
生徒指導	- 緊急時の児童生徒の搜索活動に備えて、分担区域や連絡体制等の校内外体制の整備に努めている。 - 保護者及び関係機関と連携を図り、スクールバスおよび保護者送迎、自主、自力通学における児童生徒の安全管理に努めているが、保護者の状況も変化してきており、関係機関と連携を図った対応の必要性も出てきている。 - 生徒の自己選択の活動の1つとして、また、将来の余暇活動に役立てることを目的に部活動に取り組んでいる。	- 地域に根ざした本校独自のあいさつ運動の確立。 - 児童生徒の安全管理のための校内外体制の整備、休日等における連絡体制の共有化及び組織的な生徒指導体制の確立。 - 保護者、関係機関や地域との連携強化及び学校事故等対応マニュアルの構築。 - 通学書類の適切な運用と管理に向けた見直し。
保健指導	- 各部において感染症や熱中症対応をとっているが、教職員や各部、学年間で解釈の仕方が異なってしまう現状がある。 - てんかん発作、食物アレルギー等、緊急の対応が予想される児童生徒に対応マニュアルがつくられているが、実際に起こることを予想した対応訓練をする機会がない。 - 避難訓練を毎月行い、避難行動を速やかに行うことができるようになった。一方で、緊張感に欠けた訓練になってしまう現状があった。 - 花壇の除草・植え付け、花苗の発注等、係が担当し手入れをしている。職員に加えて、生徒も学校の美化活動に取り組めるとよい。	- 校務分掌部係員間で共通理解を図る。校務分掌部係会で出たことを学部への伝達ができるようにする。 - 長期休業中を活用し、係を中心とした研修の機会の構築。 - 避難訓練の実施の実施回数、実施の仕方。 - 花壇の手入れを中学部と高等部の農業班の学習の場として有効活用する。

4 中期的目標

- 1 一人一人の良さや達成感を高める指導支援の充実
- 2 自己選択や自己決定等の体験活動を通じた教育の推進
- 3 安全・安心・信頼される教育環境と危機管理体制の充実

5 本年度の重点目標

重 点 項 目			重 点 目 標		
1	(1)	一人一人の違いを認め、子どもの強みを生かし、良さが発揮できる教育環境の工夫	ア	①	一人一人の合理的配慮がなされた教育環境づくりの充実
			イ	②	チャレンジする気持ちを引き出す環境づくり
			ウ	③	児童生徒に寄り添い、良さを認め、励ます取り組み
	(2)	達成感や満足度を高める成功体験の工夫	ア	④	認め合う、確かめ合う活動の工夫
			イ	⑤	「いつでも どこでも だれとでも」あいさつで心をつなぐ取り組み
			ウ	⑥	異なる見方や考え方を認め、可能性を伸ばす取り組み
	(3)	他者に対する尊敬と感謝の気持ちを大切にしたい人間関係の推進	ア	⑦	「ありがとう」「ごめんなさい」等の気持ちが言える安心できる環境づくりの取り組み
			イ	⑧	思いやりや感謝の気持ちを育てる交流活動の取り組み
			ウ	⑨	夢やあこがれの気持ちを大切にしたい人間関係の取り組み
2	(1)	一人一人の実態や教育のニーズに応じた学習活動の工夫	ア	⑩	教育課程に基づいた系統的な年間指導計画の作成と実践
			イ	⑪	アセスメントを活用した個別の指導計画の実施・評価及び改善
			ウ	⑫	児童・生徒の様々な課題やケースに応じた校内支援会議の充実
	(2)	自己選択や自己決定等、主体性を伸ばす積み重ねの工夫	ア	⑬	児童・生徒が「何やるの」という気持ちを大切にわくわくしながら活動する授業の工夫
			イ	⑭	失敗できる環境の中で、失敗から学ぶ体験や授業の工夫
			ウ	⑮	積極的な教材教具の開発と工夫改善
	(3)	自己肯定感を高める教師のかかわりの工夫	ア	⑯	認め合う、確かめ合う活動の工夫
			イ	⑰	異なる見方や考え方を認め、可能性を伸ばす取り組み
			ウ	⑱	他者との相互作用できる取り組み
3	(1)	高い危機管理の意識をもち、教員一人一人が児童生徒の安全を守るための体制の充実	ア	⑲	児童生徒の状況を見守り、死角を作らない体制づくり
			イ	⑳	施設・設備の安全点検と異状箇所への迅速な対応
			ウ	㉑	ヒヤリハット事例の集約と情報共有
	(2)	自力通学者の安全通学とスクールバスの安全な運行の徹底	ア	㉒	通学指導の計画的な実施（自力通学判定会議）
			イ	㉓	運行会社との日々の連携（スクールバス会議、添乗指導）
			ウ	㉔	学校のルールと社会のルールの連動の下で取り組む生徒指導の推進
	(3)	非常災害時を想定した危機管理体制の更なる改善・充実	ア	㉕	各種避難訓練の実施（地震、火災、原子力、竜巻、Jアラート、不審者対応、引き渡し訓練）
			イ	㉖	学校防災連絡会議、学校保健安全委員会
			ウ	㉗	教職員の救急救命講習会の受講